

おこ
か
「健や家づくり」のシステム工法／自立と介護の家づくり

有限会社 ケアライフ・システム

京都市下京区中堂寺南町 105-701

Tel (075) 323-0330

Fax (075) 200-1034

<http://www.care-life.info>

(2007/5月)



『光陰矢の如し』今年も1年の1/3が過ぎてしまいました。

こんな言い方をしますと、とても忙しなくてお叱りを受けるかもしれませんが…

春本番ゴールデンウィーク中は気候もよく、各地へ行楽にお出かけになる方も多いこと
と思います。この時期京都では多くの神社で『お祭り』があります。

5月15日の葵祭りは、最も歴史が古く有名です。ご覧になられた方も多くおられること
でしょう。そこで今回は、神社と神様、お祭りについて書いてみました。



神社、お祭り

京都にははたしてどれだけの数の神社があるのか？

京都府神社庁のホームページを見ると、府内に約1,570社、市内だけでも186社ありました。ちなみに、全国
では約8万社。

京都に都が遷都したのが、794（延暦13）年で小学生のときに「鳴くよ(794)うぐいす平安京」と覚えた記憶
の方も多いでしょう。今から1213年前。でも、当然のことながら、遷都以前から多くの土着民や渡来人によって
開発されていました。

京都盆地一帯は「やましろ」と呼ばれ、当初は「山代」と表記され後に「山背」と表記されるようになりました。
そして、大和から賀茂氏が移り住みやがて京都盆地の北側に大きな勢力となり、後に上・下の賀茂神社としてその名
を残したようです。

上賀茂神社（賀茂別雷神社 かもわけいかづちじんじゃ） <http://www.kamigamojinja.jp>



御祭神は賀茂別雷神。神代の昔、神社の北北西にある秀峰神山（こうやま）に御降臨になり、
天武天皇の御代(687)、現在の社殿の基が造営されたと神社の由緒にあります。

この一帯には縄文遺跡があり、太古から人の住み着いたところでした。別雷神はその名が
しめす通り雷（神鳴り）で、作物を生育させる降雨をもたらす神様です。

朝廷や幕府の庇護の下、境内はいまも神聖・厳粛な佇まいです。

下鴨神社（賀茂御祖神社 かもみおやじんじゃ） <http://www.shimogamo-jinja.or.jp>



御祭神は賀茂建角身命（かまたけつぬみのみこと）、玉依媛命（たまよりひめのみこと）。

賀茂建角身命は賀茂別雷神の祖父で、玉依媛命は母親に当たります。

境内の糺すの森周辺の発掘調査では、弥生時代の住居跡や土器が多数発掘されました。ま
た、社伝や歴史書に、紀元前からこの地に社を造営した記述があり、創祀は紀元をはるか
に遡るとみられ、京都で最も古い神社といえます。

葵祭（賀茂祭）

6世紀欽明天皇の頃、日本国中が風水害に見舞われそれが賀茂大神の祟りであるという
ことで、旧暦4月の吉日を選び馬に鈴を懸け、人は猪頭をかぶり駆馳（走らせること）
して盛大に祭りを行かせた事が起こりと伝えられています。平安時代は勅祭として始め
られ、次いで伊勢神宮の斎宮の制に準じた斎王を奉って祭りに奉仕されるようになりま
した。「源氏物語」等この時代の書物等には、ただ「祭り」とだけ記され、この祭りがい
かに盛大かつ典型的な行装と儀式であったかということがわかります。



神社、お祭り

藤森神社（ふじのもりじんじや）<http://www.fujinomorijinjya.or.jp>



御祭神は素盞鳴命（すさのうのみこと）、別雷命、日本武尊（やまとたけるのみこと）、神功皇后（じんぐうこうごう）…、中座・東座・西座合わせて十二柱。神社の起こりは約1800年前、神功皇后が新羅からの凱旋の後、藤尾（現在の伏見稲荷）の地に纛旗（とうき：軍中の大旗）を立て、兵具を収め、塚を造って祀ったことによるとあります。

「紀氏」の祖神を祀っている神社で、かつて稲荷山の麓はもともと藤森社鎮座の地でした。

こんな話を聞いたことがあります（真偽の程は分かりません）。稲荷の神様が藤森の神様に土地を借りに行かれたそうです。藤森の神様が貸借契約書に「十年」と書かれたのを、よそ見をされている間に「千年」と「ノ」を書かれたとか、藁の置き場に土地を借りたいと申し入れがあった際に、藁束の置き場くらいならと藤森の神様が承知すると、稲荷の神様は、藁を1本づつなぎ合わせて広大な敷地を借りたとか、稲荷の神様が、藁（ストロー状）を覗いて見えた土地を領域としたため、足元が見えなくて近辺住人の氏神様は藤森神社だと言うそうです。

昔は、藤森神社の神輿が稲荷大社の前に行ったときは、「土地返せ！」と言ったそうですし、毎年藤森祭には必ず「涙雨」が降ると言われます。

藤森祭

毎年5月1～5日に行われる藤森祭は、菖蒲の節供発祥の祭りと言われ、各家々に飾られる武者人形には藤森の神が宿るとされています。菖蒲は尚武に通じ、勝負にも通じるので、勝運を呼ぶ神様としても信仰を集めています。境内を駆けぬける駈馬神事は勇壮です。



伏見稲荷大社（ふしみいなりたいしゃ）<http://www.inari.jp>



御祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）を主祭神とし、佐田彦大神（さたひこのおおかみ）、大宮能売大神（おおみやのめのおおかみ）、田中大神（たなかのおおかみ）、四大神（しのおおかみ）を配祀しています。

711（和銅4）年2月初午の日に稲荷の山に鎮座されたと伝えられています。秦伊呂具（はたのいろぐ）が餅を的に矢を射ろうとしたところ、餅は白鳥となって飛び羽ばたき、山の

峰に降り立ち、そこから伊弉が奈利生えた。そこで社の名を「イネナリ⇒イナリ」としたと伝えています。

秦氏は、朝鮮半島からの渡来人で（一説には中国・秦の始皇帝の末裔?）、出納・徴税・外交事務・記録等の文字使用を業とする仕事や、養蚕・機織に代表される技術集団であり、また、河川改修や土木工事も優れた技術を有する一族でした。古くからの豪族である賀茂県主族や、外戚として勢力を伸ばしてきた藤原氏とも早くから姻戚関係を結んできました。太秦の秦氏は701（大宝元年）、松尾山に松尾大社を創建しています。



稲荷祭（神幸祭・還幸祭）

神幸祭（4月20日に最も近い日曜日）は、宮司以下の祭員および奉仕者の全員が冠・烏帽子に杉の小枝を挿し、五基の御神輿にご神霊が奉遷され、氏子区域を巡幸してお旅所へ向かい奉安殿に納められます。

還幸祭（5月3日）では、供奉列奉賛列を従えた五基の御神輿が、途中東寺の僧侶による「神供」を受けた後氏子区域を巡行し本社に到着します。引き続き御神輿よりご神霊が本殿へ奉遷され、無事の還御を称える還幸祭が斎行されます。



先にも書きましたが、京都は平安遷都以前から多くの土着民や渡来人によって開発されており、多くの神社が創建されていました。石清水八幡宮・八坂神社・貴船神社・三宅八幡神社・宇治上神社etc.

そして、5月は松尾大社の松尾祭（神幸祭：4月22日・還幸祭：5月13日）・梅宮大社の神幸祭（5月3日）・車折神社の三船祭（5月20日）等々を始め、各地の氏神様でも多くのお祭があります。

神社では、毎月一日やご縁日をはじめ様々な行事・祭事が行われています。

屋台も楽しみですが、神社の縁起や御祭神の事を知っているとチョット歴史に浸れるような気分になれます。